

平成26年司法試験 合格体験記

平成24年度修了（未修コース）伊藤 美香

七期末修の伊藤美香と申します。私は2回目の受験で合格しましたので、1回目と2回目の受験勉強で意識して変えた部分を述べさせていただきます。

1 択一勉強

1回目までは、五肢択一の問題集はそのまま解いていましたが、2回目はインプットと、時間配分練習のためのアウトプットを分けました。前者については、肢別本と五肢択一式の問題集を使い、問題は解かない、1日1分野に目を通す（例：憲法ならば人権分野を1日で）、ということを意識しました。具体的には、①解説は読まず、○の肢だけをその分野の最後まで読む。②最初に戻り、×の肢が正しい肢になるよう、簡単に修正を入れつつ最後まで読む。③○の肢、修正して正解になった×の肢に目を通しながら、理解が不十分な肢の解説に目を通す、といったものです。後者については、過去問1科目1年分ずつを、8～9割の正答率を目指し、本番より短い時間で解きました。

2 論文勉強

1回目の受験までは、本番同様、問題分析→答案構成→書くという流れで解いていました。2回目では、この全過程を通して問題を解いたのは、不合格後の11月と、年明けからの答練のみでした。代わりに過去問の答案構成を繰り返しました。失敗した答案の多くが、答案構成の段階で混乱したまま書き始めたものだったためです。法務省のHPから過去問をプリントアウトし、毎回真っ白な状態の問題に本番のつもりで書き込みを入れて解く、問題文への書き込みの入れ方、処理するための思考過程について科目ごとにメモを作り、この手順を反射的にとれるようにする、ということを意識しました。

3 大学院の授業やゼミでとったノートは、最後まで私にとって心強い味方でした。辛いと思うことも当然ありましたが、総じて楽しく勉強を続けられたのは、先生方のご指導のおかげです。最後になりましたが、お世話になりました先生方、職員の皆様に心より感謝申し上げます。